

<p>国や都、多摩市教育動向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上 ・グローバル化 ・AL ・ESD ・学習指導要領改訂 ・評価観点 ・リペア ・思考判断表現 ・道徳科 ・特支教育充実 ・英語科 ・CM ・チーム学校 など 	<p>教育目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考える子 ・思いやりのある子 ・努力する子 ・体力のある子 	<p>児童の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全体的に明るく素直な児童が多い ○興味のあることには集中できる △基礎的基本的事項の習得の個人差が大きい △応用力が弱い △学習の生活化が難しい
--	--	--

<p>学校経営方針 (学力向上のための具体的事項抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆児童が明日も行きたい学校の実現 ・指導法の工夫改善 ・学ぶ楽しさの体得 ・基礎的基本的事項の確実な習得 ・課題解決のための思考力判断力表現力育成 ・学力ステップアップ推進地域指定事業・・・東京ベーシックドリルの活用 ・学習意欲の向上・・・放課後子ども教室や学力補習週 地域の教育力の活用
--

<p>校内研究との関連</p> <p>研究主題「問題解決的な学習を充実し、考える力、表現する力を育成する ―生活科・理科を通して―」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決のための学習過程の工夫 つかむ(出会う)→調べる→考える→まとめる ・考える力・表現する力にかかわるアンケート実施 不十分な点を改善 3年間の集大成 成果と課題のまとめ ・授業にユニバーサルデザインを踏まえた授業づくり 特に、視覚化・焦点化・共有化

授業改善に向けた取組の重点 (具体的な工夫・改善のためのマネジメントサイクル)

<p>年 年間指導計画・評価計画・授業改善推進プラン等作成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○反省を踏まえた実施計画(カリキュラム・マネジメント)の作成 ○授業時数の確保&1時間の授業スタイルの確立 ○思考・判断・表現力育成のための場面の確保と設定 ○習熟度別指導推進委員会での指導法等周知徹底 ○学習意欲の向上・学習規律・学習の構えの確認 ○基礎的基本的事項の確実な習得(東京ベーシックドリル・アプリ) ○個に応じた指導、特別支援教育の充実 ○健全な心身の育成(道徳科・オリパラ教育等) ○OJT 育成計画・実施計画等組織的な取組 	<p>年 年間指導計画・評価計画・授業改善推進プラン実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校公開・保護者会等での進捗状況の公開・説明 ○学校と家庭での反復練習の理解促進(東ベ一等) ○読み書き計算、日記、読書等の宿題の継続実施 ○道徳科、防災ノート等の学校家庭での活用 ○問題解決的な授業展開の工夫 1時間の授業展開 ○習熟度別授業の効果的な実施 ○校内研究の成果と課題を日常の授業に生かす ○年研指導計画の実施状況の把握 ○OJT 育成等の意図的計画的実施
---	--

<p>年 年間指導計画・評価計画・授業改善推進プランの改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ○評価における改善事項の整理・検討 ○次年度に向けての重点事項の抽出・整理・確認 ○校内研究における次年度に向けての改善案 ○年間指導・評価・授業改善推進プラン(カリ・マネ)編成準備 ○応用力、思考・判断・表現力育成の改善に向けて ○授業改善推進プランへの学年学級ごとの改善 ○習熟度別少人数指導の改善・検討 ○問題解決的な授業展開の工夫 授業展開の改善案 ○OJT 育成等計画の見直し・改善・次年度体制

<p>年 年間指導計画・評価計画・授業改善推進プランの評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の目標・授業のめあての明確化・適切な評価 ○授業評価 アンケート・保護者会・児童等 ○計画的な評価 中間・年度末評価 ○指導・評価・援助の一体化の授業取組状況自己評価 ○学校運営連絡協議会等の外部の評価 ○習熟度別指導推進委員会での授業評価や振り返り ○校内研究の実施状況・研究の日常化の振り返り ○問題解決的な授業展開の工夫 1時間の授業展開 ○OJT 育成等の評価・意見等の集約

<p>東京方式 1時間の授業スタイルとUD化</p> <p>【導入】 (問題解決的な学習展開)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の振り返り ○問題提示・課題把握 ・課題の提示 ・課題の共通理解・確認・・・焦点化 ・課題に対する予想や疑問 (理由や根拠) ・課題解決のための資料・・・視覚化 <p>【展開】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自力解決 ・既習事項との比較 ・支援の工夫 机間指導 課題確認 ヒントカード 座席表での指名計画 等 ・別の方法や考え方への解決策 ・自分の考えを説明するための支援 ・図式・絵・文章・表等の活用・・・視覚化 ○話し合い・・・共有化 ・隣同士や小集団での話し合い ・学級全体での話し合い ・似ている点・違う点などで聞く力指導 <p>【まとめ】・・・共有化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表をもとに分かった点を整理・・・焦点化 ・本時のめあてと正対させて振り返る ・次時への予告

<p>家庭や地域 関係諸機関との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本的の生活習慣の徹底 早寝・早起き・朝ごはん・朝うんち 睡眠時間 ゲーム時間 SNS 東京ルール ○家庭での学習等への協力 宿題 忘れ物 学力向上のための取組理解 ○学校便り・学年・学級便りで周知 ○HP で周知・徹底・理解・協力・進捗状況 推進プラン 重点項目 学校行事・公開等 ○学校評価アンケートへの協力 情報公開と説明責任 ○市教委・教育センターとの情報交換

平成28年度 多摩市立貝取小学校 授業改善推進プラン

1. 国語

H28	A 教科の内容					B 読み解く力に関する内容		
観 点	関心・意欲・ 態度	話す・聞 く	書く	知識・理 解・技能	読む	取り出す 力	読み取る力	解決する力
到達度 H28	満足できる	十分とはい えない	十分とはい えない	十分とはい えない	十分とはい えない	十分満足 できる	十分とはい えない	十分とはい えない
課 題	<p>・「知識・理解・技能」領域では、漢字の読み書きや語彙などの基礎・基本に課題がある。また、学習した事柄の定着に課題があるため、「読む」活動や「話す・聞く」活動にも波及的に影響を与えている。</p> <p>・「話す・聞く」領域では、内容を正しくつかみ、自分の考えをまとめながら話を聞くことが苦手である。</p> <p>・「書く」領域では、文の簡単な構成を工夫することが不十分であり、自分の考えを文章化することが難しい。</p> <p>・「読む」領域では、自分の考えを明確にして読むことには課題が見られる。</p> <p>・上記のことから、問題解決のプロセスの中で、「正しく読み取って自力解決する」という場面に課題がある。</p>							
改善策	<p>・「知識・理解・技能」領域では、成り立ちや部首を調べるなど、多様な観点から漢字への興味を喚起する。また、積極的に辞書を活用させ、漢字の読み書きや語彙力などの基礎的・基本的な力を高める。また、これらを進める上で「東京ベーシック・ドリル」の有効活用をさらに工夫する。</p> <p>・「話す・聞く」領域では、大事なことを落とさずに聞くために、大事な文に線を引かせたり、話題に沿って話すために、まず結論から話をさせたりする習慣をつける。話し合い場面では、目的を明示し、聞き取るべき事柄をつかませる。さらに、全教科の中で、「対話的な」学習場面を設定する。その際、接続詞や話形を活用して話の構成を工夫させ、相手に伝わりやすい文として話させる。</p> <p>・「書く」ことに関しては、日記指導の中で、事実と自分の思いを文章化させる活動を継続する。また、読後感想など、書く活動全般の充実を図る。「目的に応じて書く」力を向上させるために、読み手の関心を喚起する書き出しや読み手が理解しやすい表現の工夫、理由や事例を挙げ、順序立てて書くことなどの具体的な手法について指導する。さらに、よく書けた例を紹介し、具体的に評価するなど、相互啓発の場を取り入れる。</p> <p>・「読む」に関しては、音読を授業に位置付け家庭学習としても一層の習慣化を図る。また、文章の内容を捉える指導の中では、語と語、文と文、段落と段落の関係というように、意味のつながりを考えながら理解する力を養う。物語教材については、文に即して事実や登場人物の思いを丁寧に抽出する学習展開を重視する。</p>							

2. 算数

H28	A 教科の内容				B 読み解く力に関する内容		
観 点	関心・意欲・ 態度	数学的な考 え方	技能	知識・理解	取り出す力	読み取る力	解決する力
到達度 H28	十分とはい えない	十分とはい えない	十分とはい えない	十分とはい えない	十分とはい えない	十分とはい えない	十分とはい えない
課 題	<p>・全般的な達成率の低下が見られた。この原因の一つとして、基本的な四則演算、計算や図形の法則等の知識の定着が不十分であることが考えられる。また、文章の意味理解に課題があるため、問題文から何を求めればよいのか、ということが理解できず、つまずいてしまい、その他の項目の数値も下げている。</p> <p>・「読み解く力に関する内容」が課題である。文章から、必要な情報を引き出す部分ができていないため、問題解決の際に、既習事項を使って自力解決をしようとする力が伸びていない。また、その後の問題である「関係を読み取ること、きまりを見つけて解決する」につながらない。</p>						
改善策	<p>・基礎的・基本的内容の定着が不可欠であることから、「東京ベーシック・ドリル」の効果的な活用を一層推進し、前の学年に立ち戻った習熟学習を行う。3年生以上の少人数指導では、「習熟度別ガイドライン」に沿った指導の一層の充実を図り、個に応じた学習の積み上げを継続する。</p> <p>・文章題などでは、問われている部分に線を引くなどし、解答のためのデータが視覚的にもとらえられるようにする。また、問題の内容理解を促すため、いったん口を使った式で表すなど、問題解決までの流れをていねいに指導する。さらに、絵や図を使って思考をイメージしやすくするノート作りの習慣化を図る。</p> <p>・問題解決的な学習の一層の充実を図る。特に、「解決する力」に関しては、問題に応じた解決方法を既習事項から見つけ出し活用する学習活動を多く設定する。そのために、学習課題に対して、自分なりの解決方法を表現する自力解決の時間を保障するとともに、多様な考え方を関連づけて説明し合う「対話的な」活動場面をさらに充実させる。</p>						

3. 理科

H28	A 教科の内容				B 読み解く力に関する内容		
観 点	関心・意欲・ 態度	科学的な思 考・表現	観察・実験の 技能	知識・理解	取り出す力	読み取る力	解決する力
到達度 H28	十分とはい えない	十分とはい えない	十分とはい えない	十分とはい えない	十分とはい えない	十分とはい えない	十分とはい えない
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・どの項目も十分とはいえない結果となったが、関心・意欲の数値は他の項目に比べると高かった。これは、児童が自然事象に興味をもっているためであり、それを学力の向上につなげていくことが課題である。 ・「観察・実験の技能」が大幅に下がった。課題を把握し、自力で観察・実験を行い結果を出すための技能が十分に身に付いておらず、そのために、結果・考察から導き出される知識・理解の定着も低くなっているということが課題である。 ・「科学的な思考・表現」に関しては、既習の学習内容や知識を活用して、予想を立てたり、推測したりをすることが苦手である。また、結果や考察を理科の用語を使って表現することに課題がある。 ・観察・実験の結果を一般化して考える力が乏しいため、対象物や状況が変わると、既習事項を問題解決に正しく活用することができない。それが「B 読み解く力に関する内容」の課題となる。 						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・課題をつかむ段階で、児童の興味・関心が高まる教材を準備し、分かりやすい課題提示を行うことで、児童が学習課題を自分自身のものでとらえ、解決への見通しをもって学習に取り組めるようにする。 ・「観察・実験の技能」を高めるために、「東京ベーシック・ドリル」を積極的に活用し、実験器具の扱い方や実験の方法・手順など、基礎的・基本的な学習事項の確認・定着を図る。また、実験に取り組む機会を増やし、やり方や注意点を丁寧に指導する。 ・観察・実験の結果を予想と照らし合わせて考えさせ、問題解決的な学習を行う。その際、科学事象を日常生活と結びつけて考え、学習内容を身近なものとしてとらえ、知識の一般化を図る。 ・追究の過程において、児童の思考を焦点化して整理させるために、発問や教材の提示の仕方を工夫するとともに、話し合いの場を保障することで、「対話的に」学ぶことができるようにする。 						

4. 社会

H28	A 教科の内容				B 読み解く力に関する内容		
観 点	関心・意欲・ 態度	社会的な思 考・判断・表 現	観察・資料活 用の技能	知識・理解	取り出す力	読み取る力	解決する力
到達度 H28	一部に課題 あり	概ね満足で きる	十分とはい えない	十分とはい えない	十分とはい えない	十分とはい えない	満足できる
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・観察、資料活用の技能、取り出す力の項目が例年に比べ特に低い状態である。資料から正しく情報を読み取ったり、絵や図をつかって学習したことをまとめたりする力を向上させていくことが課題となる。 ・取り出した複数の情報をもとに推論したり、それらを関連づけたり統合したりして考え、適切に表現する力に課題が見られる。 ・上記のことと呼応するように「知識・理解」の定着にも課題が見られた。ことに、基礎的・基本的な内容の学習事項のうち方位・方角、地図記号、グラフや資料の読み取り方がなどに課題が見られる。 						
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の日常に関係する具体的な資料を提示するなど、より身近に感じられる課題を設定し、意欲的に問題解決できる内容の分かりやすい教材を用意する。 ・グラフや資料の読み取りの機会を多く設定し、全体や部分に気を付けながら資料を活用する力を伸ばす工夫をする。また、2つ以上の資料を比較したり、関連づけて考えたりする指導を行う。これらのことから、児童が資料等から必要な情報を取り出すための技能（読む力）と、複数の情報を比較・関連付け・統合するための問題解決的な能力を高める。 ・観察や調査、見学などの体験的な活動やそれに基づく表現活動の充実を図り、学び方を身に付けられるようにする。そのために、事実からどんなことが考えられるかという問いを大切に学習を展開する。 ・「東京ベーシックドリル」を効果的に活用し、個に応じた学習支援を行い、基礎的・基本的な学習事項（方位・方角、地図記号、都道府県の位置、グラフや資料の読み取り方など）の定着を図る。 						